

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立思斉中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した児童生徒の育成を図るため、学校行事をはじめとして、様々な活動を通して小中一貫教育の充実にも努める。義務教育9力年で地域や母校への愛着心や自己肯定感を育てていく。 ・学力向上については、小中学校内研究会やお互いの授業参観を通して授業改善に取り組んでいる。次年度も小中合同の研修会等を通して、小中連携を図りながら、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導も継続していく必要がある。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送っている。次年度も家庭や地域と課題を共有し、連携の強化を図る。 ・教職員の不祥事防止は右とより、業務改善を図り、教職員の資質向上に継続して努めていく。
2 学校教育目標	『「見賢思齊」の精神で、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成』
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 夢や目標をもち、それに向かって粘り強く取り組む生徒の育成 2 いのちを大切に、思いやりの心をもって人に接する生徒の育成 3 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価					
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「自ら考え判断し、表現できる児童生徒」を育成するための授業改善	○「授業が分かりやすい」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「家庭学習に進んで取り組んでいる生徒90%以上」 ○「個々の能力を伸ばすようなきめ細かな指導を行っている」回答した教員90%	・基礎・基本の定着の徹底 ・「授業づくり1・2・3」を踏まえた分ける授業を目指した指導方法改善 ・家庭学習の定着に向けた指導							
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「無言清掃・係の仕事・ボランティア活動等に積極的に取り組んだ」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「友達と協力する気持ちや思いやりをもって接している」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「学校生活や家庭での生活の中で、誰かの役にたっていると感じる生徒が90%以上」	・QUを活用した学級づくり ・道徳・学活の計画的な実施と充実 ・学校行事等における生徒が活躍できる場の充実							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校が楽しい」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「学校は、いじめ問題について未然防止、早期発見・早期対応に努めている」と肯定的に回答した保護者90%以上 ○「いじめ防止について組織的な対応ができています」と肯定的に回答した職員90%以上	・人権集会やいじめ・いのちを考える日の開催 ・毎月の「心のアンケート」の実施 ・教育相談の定期的な実施及び充実 ・情報モラル教育「ひまわり講座」の実施 ・いじめ対応に関する研修の実施							
●心の教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した生徒90%以上 ●「自分にはよいところがあるとと思う生徒」が90%以上	・学校行事をはじめとして、生徒一人ひとりの活躍の場の設定と振り返り活動の充実 ・総合学習やキャリア教育を通して、自己の生き方を考える機会の設定と振り返り活動の充実							
	●運動習慣の改善や定着化 ●望ましい生活習慣の形成	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上である生徒90%以上 ○「健康にバランスのとれた食事は大切である」と肯定的に回答した生徒90%以上	・規則正しい生活（食事）、適度な運動習慣等を身に付ける指導の充実 ・保健便りの定期発行による健康に関する意識の啓発							
	○安全に関する資質・能力の育成	○交通安全教室や防犯教室等の講話など、「安全教育を通して、命を守る行動について理解できた」と肯定的に回答した生徒90%以上	・交通安全教室、防犯教室及び避難訓練の実施							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・部活動休業日の設定 ・職員の時間外勤務状況を把握して適切な指導を行う。							
	○コンプライアンスの意識の向上	○本校職員の関わる事件・事故の発生ゼロを維持する。	・職員会議毎に「ゼロの日」の実践の継続 ・講師を招き、服務に関する研修会の実施 ・声かけを大切にして、お互いに見守り合う体制の充実							
●特別支援教育の充実	○配慮を要する生徒への支援の充実	○「配慮を要する生徒への支援の充実に取り組んだ」と肯定的に回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する職員研修会等の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・特別支援学校巡回相談の実施							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導（教育相談）の充実	○共感的な人間関係の育成に向けた取組の充実	○「日頃から生徒とのコミュニケーションを重視し、生徒の悩みに直ちに伝える体制をつくっている」と肯定的に回答した教員90%以上 ○「友達関係に満足している」と肯定的に回答した生徒90%以上	・SC、サポート相談員、SSW等との連携強化及びその連携を踏まえた教育相談部会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・教育相談の定期的な実施及び充実							
○郷土を誇りに思う教育	○家庭・地域と連携した教育活動の充実	○「郷土のよさに気づくことができた」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した生徒90%以上	・ボランティア活動や小学部との交流活動、地域連携による体験活動の実施 ・思斉学の活用及び思斉学検定の実施 ・地域行事に関する周知徹底と参加推進							
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育										
5 総合評価・ 次年度への展望										